

2020年1・2月号

特集：光通信は空へ、海へ、量子の世界へ

光ファイバー通信を中心に発展してきた光通信技術ではあるが、そこで発展した送受信デバイス、通信関連技術を発展させることで、光ファイバーを離れた広い応用へと展開を見せている。近年は地上と衛星間的高速通信や、海洋の深海底や探査情報の伝送などの研究開発（ALANコンソーシアム, Aqua Local Area Network）が進んできている。また量子暗号技術・量子ニューラルネットワーク（のためのイジングモデル）技術への光通信からの派生技術も貢献しているようである。

その最近の開発動向を紹介することを目的としたい。

	タイトル	執筆者
1	特集にあたって	OplusE編集部
2	衛星間光通信の研究開発動向	JAXA
3	静止衛星－地上間の超高速光衛星通信	NICT
4	5G時代に光ファイバー－無線間を融合する光通信システム・デバイスの研究	三重大学
5	水中LiDAR技術	トリマティス
6	深海映像データの光無線通信を用いた伝送技術	東京海洋大学
7	水中ギガビット高速光通信関連技術	山梨大学
8	量子暗号技術の最近の進展について	玉川大学
9	分極反転型ニオブ酸リチウム位相感応増幅器とコヒーレントイジングマシン応用	NTT先端集積デバイス研究所

※特集予定は都合により変更になる場合があります。

発行日：2019年12月25日

申込締切：2019年11月19日

原稿締切：2019年11月29日